

◎特集1

平成19年度決算報告

岡谷市の健康状態を「財務情報」からチェック

平成19年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が、第6回市議会定例会で認定されましたのでお知らせします。同年度は「岡谷市行財政改革プラン」実施2年目の年として、実効ある改革の推進に取り組むなか、平成18年7月の豪雨災害による災害復旧・復興を最優先に予算が執行されました。

わたしたちのまちで、どのようにお金が使われているのかを知ることは、岡谷市の資質や体力を正しく理解するだけでなく、将来の展望とその道筋をより確実なものにするためにも必要かもしれません。決算をそうした視点から読み解いてみましょう。

◆一般会計

黒字 6億5213万3231円

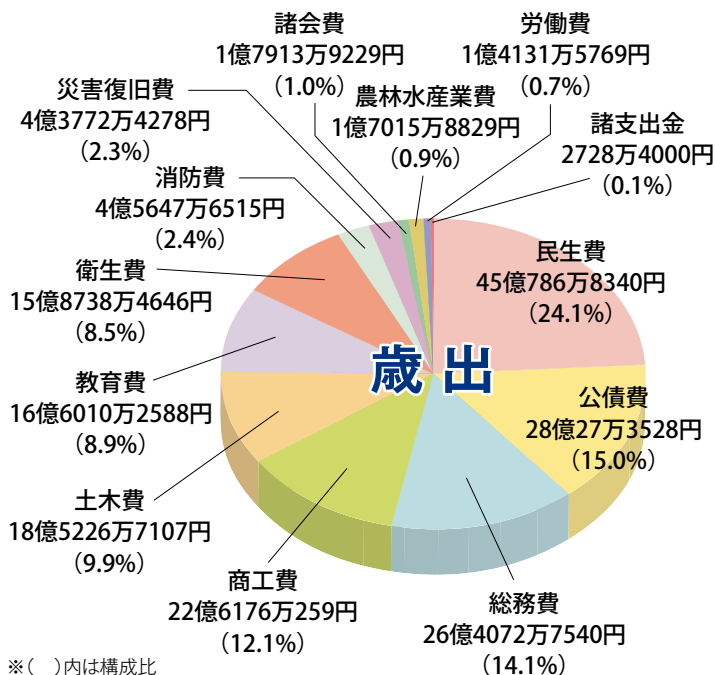
（歳入から歳出を引き、事業などの進み具合によって、次の年へ予算を持ち越す繰越金を差し引いた額）

**市民のみなさんの理解と協力によって
実現しました**

引き続き厳しい経済情勢が続きます。今後も「岡谷市行財政改革プラン」など経費節減の取り組みを、市民のみなさんとともに推進し、健全な財政運営に努めます。

●一般会計歳出の内訳

市が使ったお金の合計は、187億2248万2628円
前年度比 ー3億6254万3909円(1.9%減)

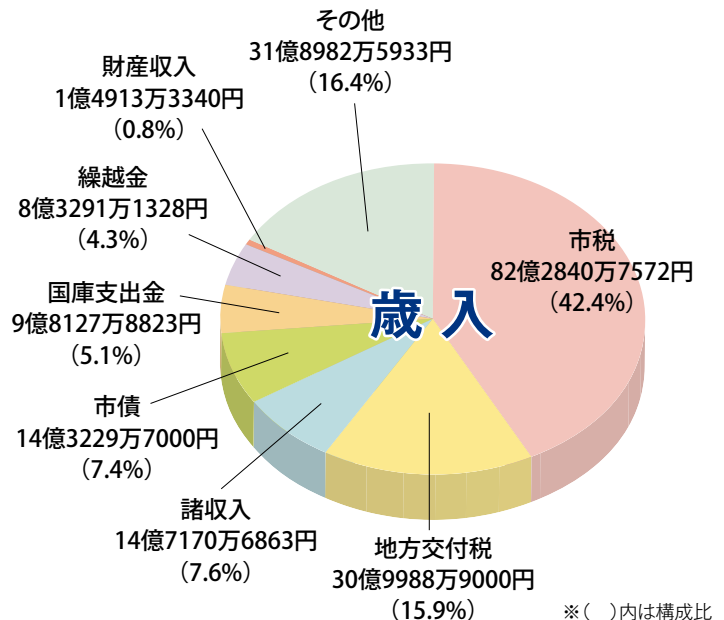


※()内は構成比

歳出 187億2248万2628円

●一般会計歳入の内訳

市へ入ったお金の合計は、193億8544万9859円
前年度比 ー5億3248万8006円(2.7%減)



※()内は構成比

歳入 193億8544万9859円

わかりやすくするために決算を家計簿に置き換えてみましょう。

◎歳入

(年収500万円の家庭として)

市の一般会計	決算額(百万円)	わが家の家計簿	(千円)
市 税	8,228	給 料	2,122
地方交付税・国庫補助金等	5,750	親からの支援	1,483
使用料等	3,331	パート収入	859
繰 入 金	644	貯金の取崩し	166
市 債	1,432	新たな借金	370
合 計	19,385	合 計	5,000

◎歳出

市の一般会計	決算額(百万円)	わが家の家計簿	(千円)
人 件 費	4,000	家族への小遣い	1,032
扶 助 費	1,792	医療費・各種保険料	462
公 債 費	2,800	借金の返済	722
物 件 費	2,615	食費・光熱費等の生活費	675
維持補修費	226	家や車の修繕費	58
補 助 費 等	2,863	子どもの教育費	738
繰出金・貸付金	2,239	子どもへの送りや友人への貸付	578
積 立 金	303	貯 金	78
普通建設事業費	1,884	家の増改築	486
合 計	18,722	合 計	4,829

◎貯金と借金の残高

市の一般会計	決算額(百万円)	わが家の家計簿	(千円)
基金残高	4,629	貯金残高	1,194
市債残高	24,928	借金残高	6,430

世帯数(平成20年4月1日現在) …20,342世帯

人口(平成20年4月1日現在) …… 53,894人

市税などの負担額

平成19年度個人市民税決算額

……………31億221万2773円

1世帯当たり個人市民税負担 … 15万2503円

平成19年度市税決算額 …82億2840万7572円

市民1人当たりの市税負担 …… 15万2678円

市民1人当たりに使われたお金

歳出計…………… 34万7395円

内訳	民生費	8万3643円
	公債費	5万1959円
	総務費	4万8999円
	商工費	4万1967円
	土木費	3万4369円
	教育費	3万0803円
	衛生費	2万9454円
	消防費	8470円
	災害復旧費	8122円
	議会費	3324円
	農林水産業費	3157円
	労働費	2622円
	諸支出金	506円

◆ 基金の状況

平成19年度決算基金積み立て総額
46億2932万9293円

大きな事業を行なうには、多額の資金が必要で
す。しかし、毎年の必要な経費を削って投資をする
ことはできません。市民生活に影響を及ぼすこと
なく大きな事業を行なうためには、蓄え（＝貯金）
が必要で、それを基金といいます。

現在、岡谷市には、ふるさとまちづくり基金、
市営住宅整備基金、工業技術振興基金など、合わ
せて16種類の基金があります。基金は、市が将来
を展望したまちづくりを進めるために、計画的に積
み立てられています。基
金の設置は、市の条例
により定められており、
その目的以外に使う
ことはできません。

◆ 市債の状況

平成19年度借入額
14億3239万7千円

市債は、建設事業などで多額の財源を必要とす
るとき、一定のルールのもとに借り入れる重要な財
源で、平成19年度の市債は、道路、小中学校の整
備や災害復旧事業の財源として借入を行いました。

平成19年度末の市債残高（今までに市が借入れた
市債の残額合計）は、249億2755万8946
円あります。ただし、この内の約54%は地方交付税
で補てんされ、財源が確保されるため、将来の負
担は軽減されます。



◆ 岡谷市の財政状況は？（財務指標）

（いずれも総務省が9月に公表した暫定値）

経常収支比率	岡谷市（H19）	88.4%	県下19市中6位
	（H18）	88.8%	
	（H17）	87.3%	
	諏訪市	92.4%	県下19市中16位
	茅野市	86.8%	県下19市中4位
財政力指数	岡谷市（H19）	0.722	県下19市中4位
	（H18）	0.696	
	（H17）	0.665	
	諏訪市	0.842	県下19市中1位
	茅野市	0.704	県下19市中5位
実質公債費比率★	岡谷市（H19）	11.0%※	公表県下18市中6位
	（H18）	15.3%※	※算定方法が変更
	（H17）	14.4%	
	諏訪市	11.0%	公表県下18市中6位
	茅野市	11.7%	公表県下18市中8位
将来負担比率★	岡谷市（H19）	97.1%	県下19市中12位
	諏訪市	178.8%	県下19市中18位
	茅野市	104.3%	県下19市中13位

実質赤字比率★	数値なし	実質赤字、連結実質赤字、資金
連結実質赤字比率★	数値なし	不足ともに発生していないため。
資金不足比率★	数値なし	（諏訪市・茅野市とも数値なし）

経常収支比率

財政の弾力性を示す指標として用いられ、数値が高い
ほど硬直化しているとされます。

財政力指数

財政力の強弱を示すもので、数値が小さいほど税収入
の能力が低く、交付税への依存度が高いとされます。

実質公債費比率★

公債費の占める割合を示すもので、25%を超えると黄
色信号となります。

将来負担比率★

将来負担すべき負債額の割合を示すもので、350%を
超えると黄色信号となります。

実質赤字比率★・連結実質赤字比率★・

資金不足比率★

一般会計や特別会計、下水道などの企業会計の赤字額
の割合を示すもので、一定の数値になると黄色信号とな
ります。岡谷市はいずれの比率も赤字額がないため、数
値なしとなっています。

★印のついた5指標は、財政健全化法に基づき平成19
年度決算から算出することが義務付けられた指標です。
一般会計等の普通会計だけでなく、企業会計や一部事務
組合なども含めた多角的な視点
から市の財政状況を捉える
全国統一の判断指標と
なっています。



◆ 市民一人当たりの貯金と借金は？

名 称	金 額
基金積立合計	46億2932万9293円
市民1人当たりの基金額（貯金額）	8万5897円
市債残高合計	249億2755万8946円
市民1人当たりの市債残高（借金額）	46万2529円

◆岡谷市のバランスシート

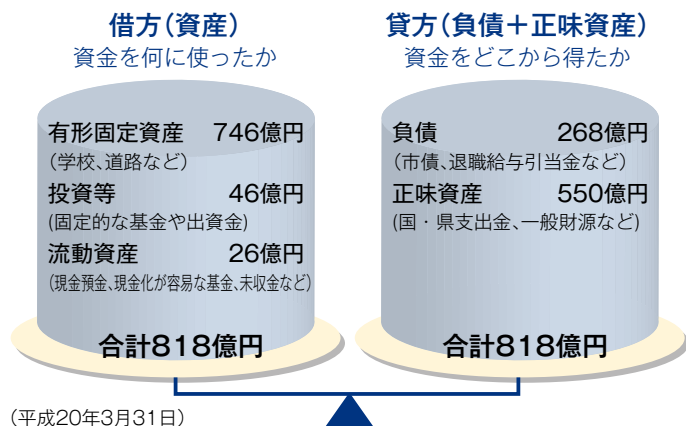
資産や負債はいくら？

バランスシート（貸借対照表）は、一般家庭に例えると現金管理のための家計簿ではわからない住宅ローンの残額（借金）や貯金、家などの資産がどれだけあるかを表すものです。

借方には現在市民が持っている学校、道路、公園、土地などの財産が「資産」として計上されて、貸方には将来の世代が負担しなければならぬ借金を「負債」として、今までの世代が既に支払ってきた額を「正味資産」として計上しています。

平成19年度末の市の総資産は818億円（市民1人あたり152万円）で、将来負担しなければならぬ負債は268億円（市民1人あたり50万円）、今までに負担した正味資産は550億円（市民1人あたり102万円）となっています。

資産総額は前年度と比べ23億円ほど減少していますが、主な要因は建設事業費の縮小によるものです。



◆行政コスト計算書

経常的な費用とその財源は？

行政コスト計算書は、バランスシートには出てこない経常的な行政サービスを提供するため、1年間にどの分野でどのような費用がかかり、それをどのような財源でまかなったかを表すもので、一般家庭に例えると光熱水費や医療費などに当たります。

平成19年度の行政活動費用総額は169億円（市民1人あたり31万円）で、収入は163億円（市民1人あたり30万円）となっています。

◎特別会計

会計名	収入済額	支出済額
国民健康保険事業	49億1514万8525円	49億5826万0983円
地域開発事業	2275万8376円	4億2174万9486円
分収造林事業	3264万7181円	3196万7811円
霊園事業	2633万4975円	934万3458円
老人保健事業	52億8897万0456円	52億8841万2556円
温泉事業	3564万2883円	1761万0029円
訪問看護事業	6218万1046円	3394万6267円

特別会計とは

特定の事業を行う場合または特定の収入で事業を行う場合に、経理を他の会計と区別する必要があるため、法律や条令に基づいて設置しているものです。

◎企業会計(収益的収入および支出 税込み)

会計名	収入額	支出額
病院事業	76億1796万6281円	78億4200万7730円
水道事業	9億6723万5647円	8億8164万2691円
下水道事業	16億8753万6684円	16億3340万7158円

企業会計とは

特別会計のうち、原則市税を収入財源とせず、独立採算制を追及する極めて企業的色彩の強い事業を行う場合に、地方公営企業法の規定を受けて設置する会計です。一般会計やその他の特別会計とは異なり、民間企業と同様の経理を行うものです。

